萩市立萩西中学校

授業づくり拠点校（国語科）実践事例

○ 公開授業学習指導案

指 導 者　山下 恵美

1　教材名　身近な資料を読み取り意見文を書こう
～文章の構成を工夫し、立場と根拠を明確にして書く～

2　学習のとらえ方

(1) 理由や根拠を明確にして自分の考えを具体的に「書く」力が十分に身に付いていない。

本学級の生徒は１年時よりペア学習やグループ学習を通して男女隔てなく話し合い活動を行うことができ、発表力も比較的ある。これまでの学力定着状況確認問題（１年時）や「やまぐち学習支援プログラム」期末評価問題、ＣＲＴ等の結果から特に根拠となっている描写を捉えて「読む」ことや判断の根拠となる部分を説明したり、事実の背景や理由を説明したりして「書く」力の育成が課題としてあがっている。「ものを集める」ことについて、経験や考えをもとに三文以上の作文を書くという課題に取り組ませてみたところ次のような誤答例が多くみられた。「三文以上でない。経験について触れていない。句読点が適切に使われていない。文末の不統一、話し言葉の使用」などである。これらのことから生徒は、これまでの学び直しを含め、理由や根拠を明確にして自分の考えを具体的に「書く」力が十分に身に付いていないと言える。

(2) 自分の立場や根拠を明確にして「書く」力を身に付けさせることのできる教材である。

意見文は説明文の範疇に含まれるが「ある客観的な事実」について説明する文章とは異なり、「自分の意見（考え）」を説明する文章である。そういう意味では「主観的な文章」であると言えるが、重要なのは「客観的な事実の裏付けをもって論理的に主観を述べる」という点である。そのため意見文を書くには、まず、自分の立場を明確にすることや意見を支える強い理由や根拠、さらには論理的な文章構成が必要である。本教材は、身近な生活の中から課題を見つけ、それを解決するためにこれまでの経験や資料から読み取ったことを活用し、自分の意見をまとめる活動を通して、自分の立場や理由、客観的な根拠を明確にして自分の考えを「書く」力を身に付けさせることのできる教材であると考える。

(3) 授業と実生活の関連をもたせることにより生徒の主体性や活用する力を伸ばした

い。

ここでは、中学校学習指導要領第２学年の「書くこと」の指導事項「イ　自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。」「ウ　事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり描写を工夫したりして書くこと」を中心に指導する。意見文のテーマである「家庭学習時間を増やすためにはどうしたらよいか。」は生徒の身近な課題でもあり、以前、保健委員会で提案したアウトメディアへの取組とも関連がある。また、生徒が他の生徒の意見文を読んだ後、その意見に対し「理解」するだけでなく「納得」をし、自分の生活を振り返ったり、考えを変えたり、実生活で行動を起こしたりすることもあるだろう。指導にあたっては、意見文の構成や工夫、段落相互の関係を学び直しする際に新聞の投書記事を活用したり、生徒の身近な資料を提示したりすることにより生徒の主体性や活用する力を伸ばしていきたい。

３　学習目標

・　自ら設定した課題について、自分の立場を明確にしながら、主体的に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
・　自分の立場や伝えたい事実や事柄を明確にし、文章の構成を工夫して書くことができる。【書く】
・　書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して推敲することができる。【書く】
・　文の中の成分の順序や照応、文の構成などについて考えることができる。【伝国】

４　学習計画（全４時間）

(1) 投書記事の段落の並べ替えを通して意見文の構成や工夫を知る。・・・１時間
(2) 資料を読み取り、根拠を明らかにして自分の立場を決定する。・・・・１時間
（本時１／１）
(3) 立場や伝えたい事実や根拠を明らかにして意見文を書く。・・・・・・１時間
(4) 書いた文章を読み合い、意見を交流し、推敲する。・・・・・・・・・・１時間

５　本時の学習指導

(1) 主眼

事実や体験、資料から読み取った内容を根拠に自分の立場を決定することができる。

(2) 授業の過程

学習活動および学習内容	教師の手だて
① 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもち、めあてを確認する。	① 前時に学習した意見文の構成や工夫を示し、前時の活動を振り返らせ、本時のめあてを提示する。
説得力のある意見文を書こう。 ～資料を読み取り、自分の立場を決定しよう～	
② 資料（グラフ）を読み取る。 □平日の勉強時間 □平日の睡眠時間 □平日のテレビ・ビデオ・ＤＶＤの視聴時間 □平日のゲーム時間 □「健やかだより」（保健室通信） 「全国学力学習状況調査生徒質問紙」 「学力定着状況確認問題生徒質問紙」 「保健委員会アンケート」　から ・わかったことをワークシートにまとめる。 ≪『活用する力』をはぐくむ学習活動Ｄ≫ ・グループ内で発表する。 ≪『活用する力』をはぐくむ学習活動Ｆ≫	② テーマに関する資料を提示する。 ・全国と本校２年生の平日の勉強時間のグラフを提示し、「平日の家庭学習時間を増やすためにはどうしたらよいか。」をテーマとして示す。 ・次に、平日の睡眠時間、平日のテレビ等の視聴時間等のグラフを提示し、全国と比較してどのようなことがわかるか読み取らせる。 ○評価の観点【④読むこと】 本校と全国のグラフを比較し、資料を正しく読み取ることができる。〔ワークシート〕 ・グループ内でそれぞれ読み取ったことを自分の意見や考えの共通点や相違点に注意させながら情報や知識を共有させる。
③ 根拠を明らかにして自分の立場を決める。 ◆平日の家庭学習時間を増やすには、 Ａ　テレビやビデオ・ＤＶＤの視聴時間 Ｂ　睡眠時間 を減らしたほうがよい。 Ｃ　その他 ≪『活用する力』をはぐくむ学習活動Ｃ≫	③ 資料から読み取ったことや事実や体験を根拠にして立場を決めさせる。 ・生徒の実態や立場により根拠となる資料を選択させる。 ○評価の観点【③書くこと】 資料から読み取ったことや事実や経験を根拠として書きあげ、自分の立場を決めることができる。〔ワークシート〕 ・何人かの生徒に発表させる。
④ 本時の授業を振り返る。 ・授業評価をする。	④ 本時を振り返らせる。 ・次時の予告をする。

※『活用する力』をはぐくむ学習活動

A：体験から感じ取ったことを表現する。

B：事実を正確に伝達する。

C：概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

D：情報を分析・評価し、論述する。

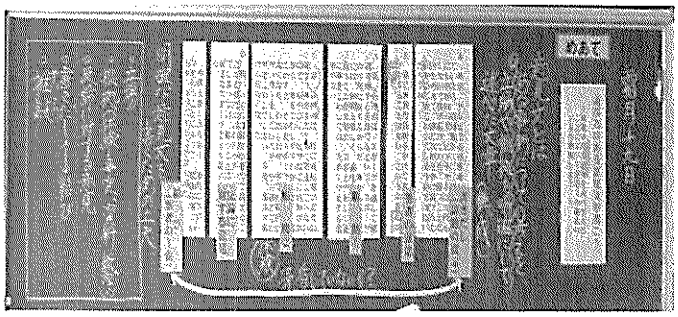
E：課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する。

F：互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

○ 学習の流れ（全４時間）

第１時　意見文の構成や工夫を新聞の投書記事から学ぶ。

〈めあて〉新聞の投書記事を並べ替えることによって、意見文の構成や工夫を理解しよう。



〈主な学習活動〉

・学習の見通しをもつ。

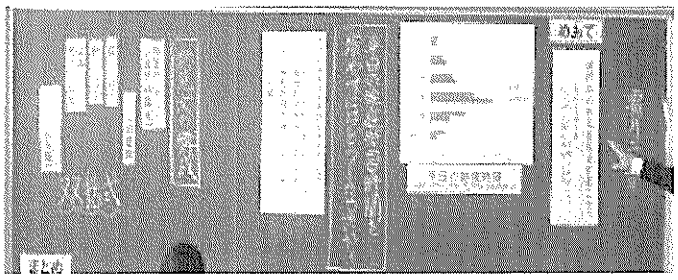
・意見文について復習する。

・新聞の投書記事の段落の並べ替えをする。

・意見文の構成や工夫を知る。

第２時　資料を読み取り、根拠を明らかにして自分の立場を決定する。

〈めあて〉資料を読み取り、自分の立場を決定しよう。



〈主な学習活動〉

・資料を読み取り課題を発見する。

・課題を解決するための資料を読み取る。

・根拠を明らかにして意見文を書く自分の立場を決定する。

第３時　構成を工夫して意見文（投書記事）を書く。

〈めあて〉伝えたい事実や根拠を明確にして意見文を書こう。

〈主な学習活動〉

・意見文構想シートを活用し、６００字程度の意見文を書く。

第４時　書いた意見文を読み合い、推敲する。

〈めあて〉友達の意見文を読み、意見を交流しよう。

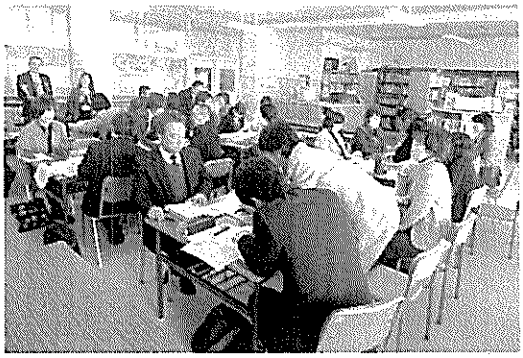
〈主な学習活動〉

・友達の意見文を読み、立場や根拠が明確であるか、語句や段落のつながり等について気付きを述べ合う。

・友達の意見を参考に意見文を推敲する。

○ 研究協議

（ワークショップ形式の協議から出されたおもな意見）



○資料が身近で関心を持ちやすい課題であった。
○本時のめあてが明確で学習の見通しが持ちやすい。
○Ａ，Ｂ，Ｃの立場を用意したのは低位の生徒にとっては書きやすかったのではないか。
○個で取り組む時間が確保されていた。
○意見文の構成が定着していた。
○めあて（ねらい）を常に意識した指示が出ていた。
○ワークシートが意見文の構成図になっていた。
○「書く」こと、「読む」ことに関して生徒が鍛えられている。
○教科を越えた国語の姿が見られた。
●「西中全体」か「個人」かなのか、書く立場がはっきりしない。
●共学びの活動が不十分であった。
●資料の数と種類はよかったのか。
●立場の提示は必要なかったのではないか。（提示された３つの立場は適切か）
●資料の分析は、他者と批評し合う機会（グループ活動）が必要である。
●グラフを読み取る視点を明確にしたほうがよい。
●立場により自分から資料を求める活動があるとよい。
●言葉の力は磨かれていたのか。

○ 授業後の考察

国語科の授業で育成する描写、要約、紹介、説明、記録、報告、対話、討論といった力は、他の教科の「活用する力」の基礎となるものであり、ひいては各教科の目標の実現に大きな役割を果たすものであることを国語科教員として肝に銘じたい。また、そのような役割を果たすことが、本来的な国語科の充実につながるのではないだろうか。各教科において必要となる言語活動をさらに細分化、系統化し、国語科の内容に位置づけられた言語活動例との関連を図りながら他教科に活用することのできる国語の力を育成、発信していきたい。また、授業を通して自分なりの提案ができ、たくさんの貴重なご意見をいただくことができた。今後の国語指導に生かしていきたい。

○ 学校全体での取組

1　「活用する力」をはぐくむ学習活動を取り入れた授業改善

(1)　「活用する力」や「活用する力」をはぐくむ学習活動の共通理解

◆「活用する力」とは、

学習により得た知識や技能をもとにして、「思考し、判断し表現できる力」であり、基礎的・基本的な知識・技能の習得と関連させながら伸ばしていく。

◆「活用する力」をはぐくむ学習活動→学習指導案※点線囲み参照

(2)　昨年度までの研究の成果を生かしたペア学習やグループ活動などを積極的に授業に取り入れた「個を伸ばし学び合う集団づくり」の実践

(3)　計画的な「研究授業」と「ポイント指導案」による「公開授業」の実施（年間一人一公開授業）

(4)　「めあて」（学習課題）と「まとめ」（振り返り）のある授業

(5)　「活用する力」をはぐくむ学力向上プランの作成と見直し

(6)　学習指導案の形式、授業評価項目の見直し

３年　数学科　関数
～種類別のピースの数を数えよう～

２　基礎的・基本的な知識・技能の習得のための取組

(1)　「学習サポートブック」の改訂とダイジェスト版の作成

(2)　「宿題用ホワイトボード」の活用

(3)　モジュール学習の実施（週３日　国・数・英）

(4)　「自主学習ノート」（１日１ページ）の提出の徹底と内容の充実

(5)　「学習相談コーナー」の設置

(6)　養護教諭、保健委員会、保護者と連携した「アウトメディア」への取組

３　諸問題を活用した学力の検証と分析

(1)　全国学力学習状況調査、学力定着状況確認問題、やまぐち学習支援プログラム、ＣＲＴ　等

(2)　研修組織内に情報処理部会を設置→集計・分析作業の効率化

４　「活用する力」の高揚をねらいとする研究協議会、研究先進校、授業づくり拠点校研修会への参加、視察と復伝

５　講師を招聘した「活用する力」に関する校内研修会の開催（８月）

○ 今年度の取組を振り返って

本校では年度当初に「授業づくり拠点校」の指定を受け、校内研修の柱として活用する力を高める授業についての実践研究を行ってきた。「全国学力学習状況調査」では、「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。どちらかといえば、与えられている」と答えた生徒が８６．３％で昨年を１６．４ポイント上回った。また、「普段の活動では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。どちらかといえば、思う」と答えた生徒が８８．３％で１７．４ポイント上回るなど昨年度から取り組んできた言語活動を取り入れた授業改善が確実に浸透していることをうかがわせた。

また、１０月末の「学力定着状況確認問題」においても１，２年のほぼ全ての教科で県平均を上回っている。教科、設問ごとの詳細な分析はまだこれからであるが、一番の成果は「活用する力」をはぐくむという方向性を打ち出せたことで授業改善に全校で取り組めたこと、また、計画的な研究授業や授業公開が大きく進展したことである。今後もより実効性のある「活用する力」をはぐくむための授業づくりに取り組んでいきたい。